

2014 年度（平成 26 年度）前期終了時点電子工学科 1 年生向けアンケート結果

本アンケート結果は 2014 年度前期・電子工学一般の授業後に 1 年生の皆さんに回答していただいたアンケートを集計したものです。アンケートへのご協力ありがとうございました。ここでは、アンケートの結果および電子工学科からの教員側からの返答をまとめました。是非最後まで読んでみてください。

1. あなたはなぜ芝浦工業大学電子工学科に進学しましたか？

図 1 に問 1 の回答分布を示します。

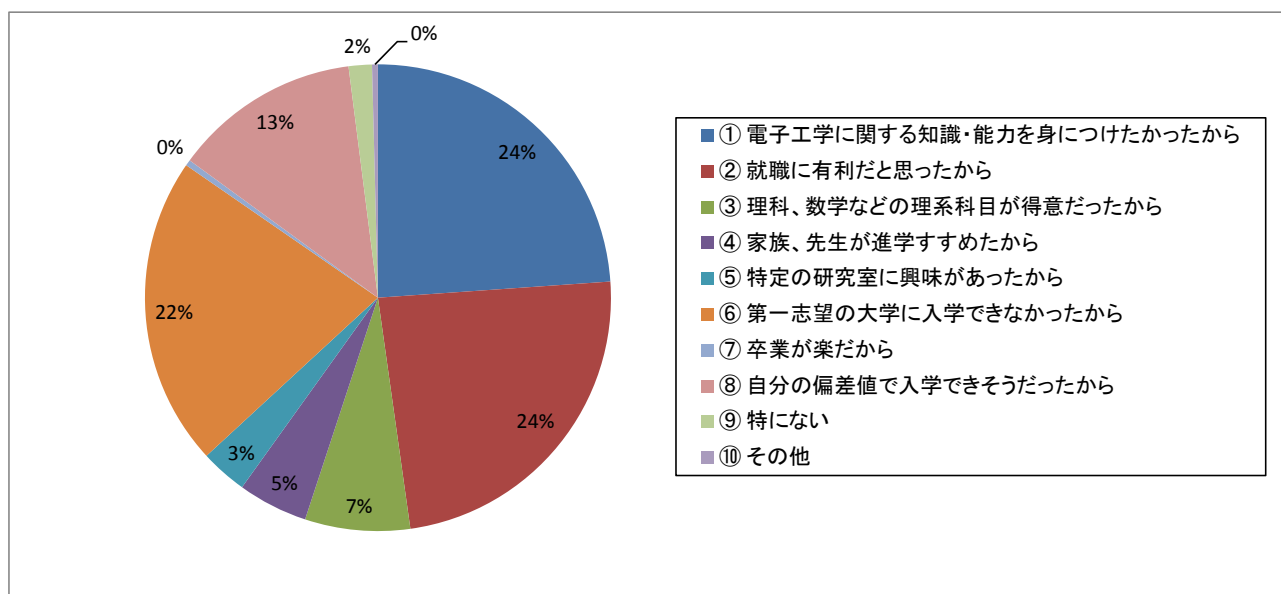


図 1. 問 1 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが芝浦工業大学電子工学科に進学を選んだ理由を調べるためのものです。積極的な理由として、“電子工学に関する知識・能力を身につけたかったから”及び“就職に有利だと思ったから”そして“③理科、数学などの理系科目が得意だったから”の合計は 55% でした。昨年度と比べ、7%低くなっていました。過半数の方が積極的な理由で入学されていますが、そうでない方が増えてます。その一方、“⑤特定の研究室に興味があった”は昨年度より 3%高くなっており、研究に力を入れる本学科としては大変うれしく思います。

消極的な理由として、“家族、先生が進学をすすめたから”、“第一志望の大学に入学できなかったから”そして“⑧自分の偏差値で入学できそうだったから”の合計は 40% でした。昨年度と比べ、11%と高くなっていました。

皆さんは社会人に向けて新たなスタートラインからスタートしたばかりです。偏差値で本校を選ばれた方も、第一志望ではなかった方も、新たな思いで大学生活を送って欲しいと思います。

2. あなたが受験する大学を選択した際、参考にした情報源は何ですか？

図2に問2の回答分布を示します。

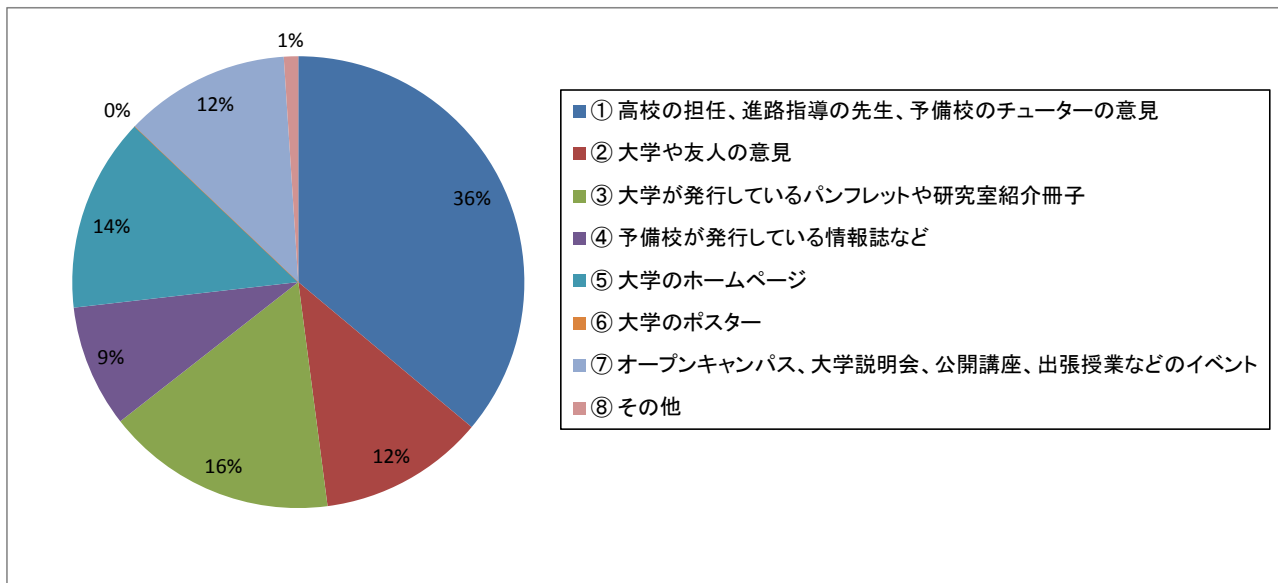


図2. 問2の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学を選ぶ際に、参考にした情報源を調べるためのものです。最も多いのは“高校の担任、進路指導の先生、予備校のチューターの意見”でしたが、昨年度と比べて11%多くなっています。次いで、“大学が発行しているパンフレットや研究室紹介冊子”、“大学のホームページ”、⑦オープンキャンパス、大学説明会、公開講座、出張授業などのイベント”が多いですが、特に昨年度と比べて⑤は6%、⑦は4%多くなっていました。インターネットや大学の広報活動を積極的に利用されている方が多くなっていますが、その一方で近しい方の意見を重視されたり、自分の目で確かめたりする慎重な姿勢がみてとれます。

3. あなたが受験する大学を決める上で、最も重視した項目はなんですか？一つだけ選択してください。

図3に問3の回答分布を示します。

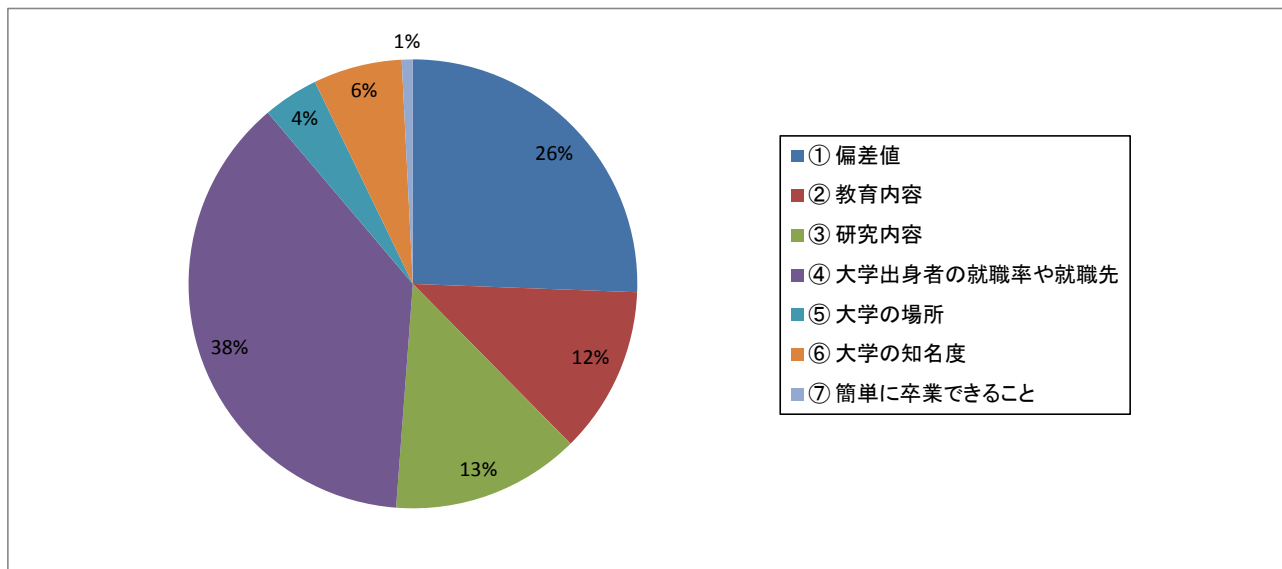


図3. 問3の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学受験の上で重視した点を調べるためのものです。“①偏差値”と“④就職率”の合計が65%と多く、皆さんが最も重視しています。これまでの傾向と大きな変化はなく、“①偏差値”は現在の大学受験・進学システムの上で意識せざるを得ないものでしょう。“就職率”は38%と最も多く、本学・本学科に大きな期待が寄せられていると考えています。②教育内容と③研究内容を重視する意見は25%ありましたが、本学科では水準の高い魅力的な教育を提供しており、また研究により深く取り組むための大学院もあります。是非、進学も視野に入れて欲しいと思います。他、場所や知名度を重視される方もいましたが、大学に来ているだけでは実力が身につきません。自ら進んで取り組むことが重要です。

4. あなたはいつ芝浦工業大学を進学先として意識しましたか？一つだけ選択してください。

図4に問4の回答分布を示します。

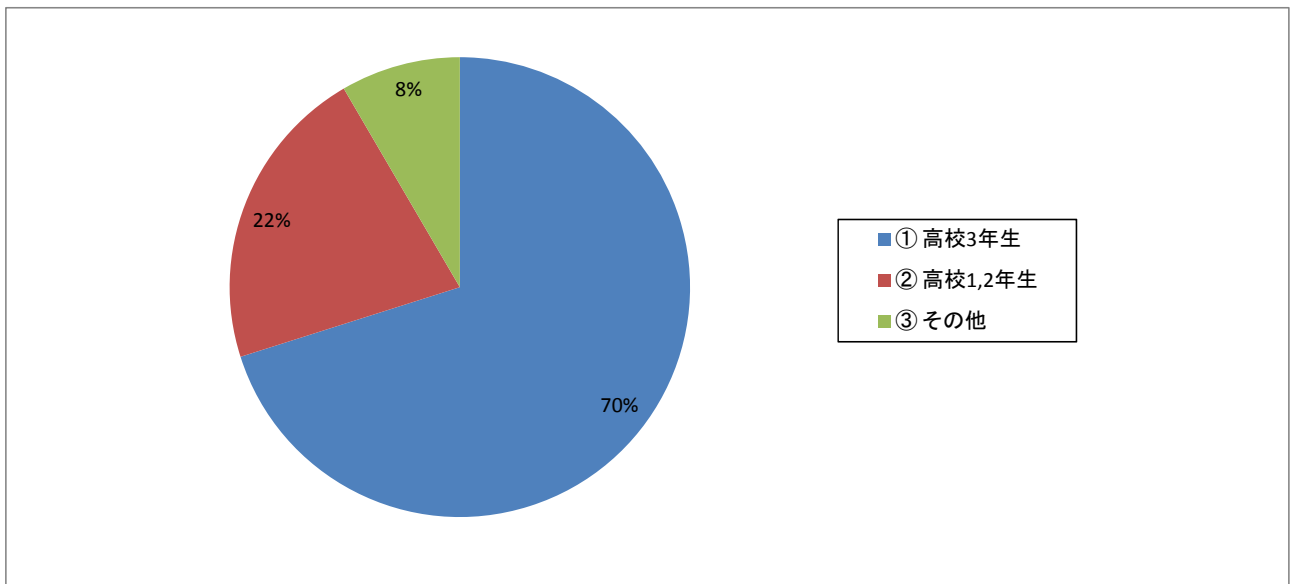


図4. 問4の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんがいつ芝浦工業大学を進学先として意識したかを調べるためのものです。ほとんどの人が“①高校3年生”と回答しておりました。一方で、“②高校1,2年生”と回答された方が22%ありました。昨年度と比べて6%高くなっており、早くから本学を意識されていることをうれしく思います。

5. あなたが大学の勉強で最も修得していきたいと考えていることは何ですか？一つだけ選択してください。

図5に問5の回答分布を示します。

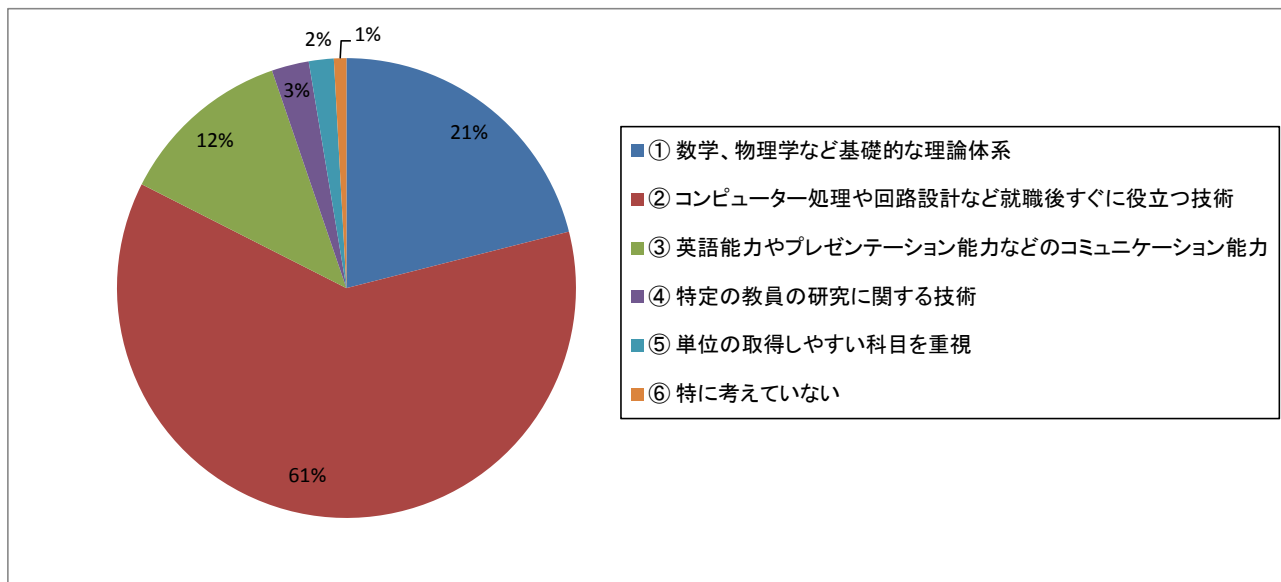


図5. 問5の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学で何を学ぼうとしているのかを調べるためのものです。回答の61%が“ コンピューター処理や回路設計など就職後すぐに役立つ技術”でした。皆さんが実力や就職を強く意識しているものと思われます。しかし、「すぐに役立つ技術」は時代とともに変わっていきます。一方、“①数学、物理学など基礎的な理論体系”は21%ありました。このような普遍的な知識はすぐに役に立つように見えないかもしれませんが、基礎的なことをしっかり習得しておくことで、高度な知識を積み上げることができるようになります。そして「次の役立つ技術」に対応する時にあなたをしっかりサポートします。

“ 英語能力やプレゼンテーション能力などのコミュニケーション能力”は12%と、昨年度より3%多くなっています。単なる英語の語学力やテクニックだけでなく、相手のことを考えて話すようなコミュニケーション能力が基本となります。普段から自分の考えを友達・教員・家族にわかりやすく心掛けて話していても培うことができます。

6. 本学科では3年次の電子工学ゼミナールという科目の履修の際に、事実上の研究室配属が行われますが、その事を知っていましたか？

図6に問6の回答分布を示します。

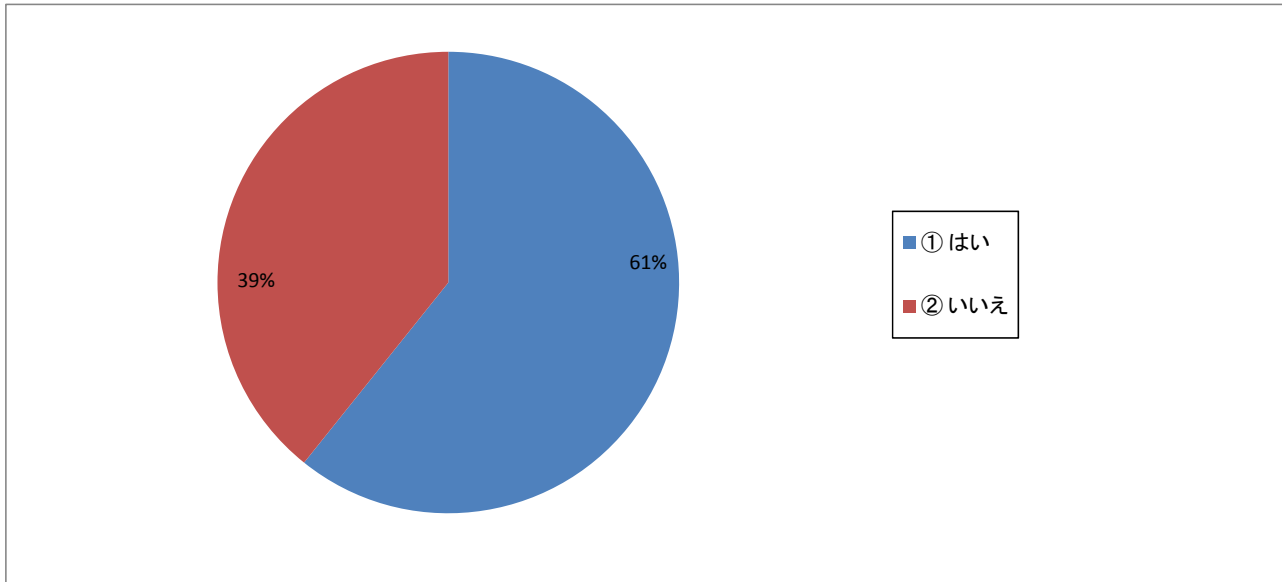


図6. 問6の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが卒業研究を行う研究室配属についての意識を調べるためのものです。39%の方が知らなかったと回答しています。ガイダンス資料を見直し、今後の予定をしっかりと把握しましょう。卒業研究は学部での学びの集大成として4年次に行うものです。3年後期電子工学ゼミナールでは、事前に卒業研究内容に触れて準備をすることで、より充実した卒業研究にして欲しいという意図があります。卒業研究内容によって就職先が制限されることはありませんので、できるだけ興味あるテーマで行うことが望ましいです。普段から自分の興味を意識し、3年前期終了までには方向性を決めておきましょう。

7. 研究室を決める上で、重視しようと考えていることはありますか？ 一つだけ選択してください。

図7に問7の回答分布を示します。

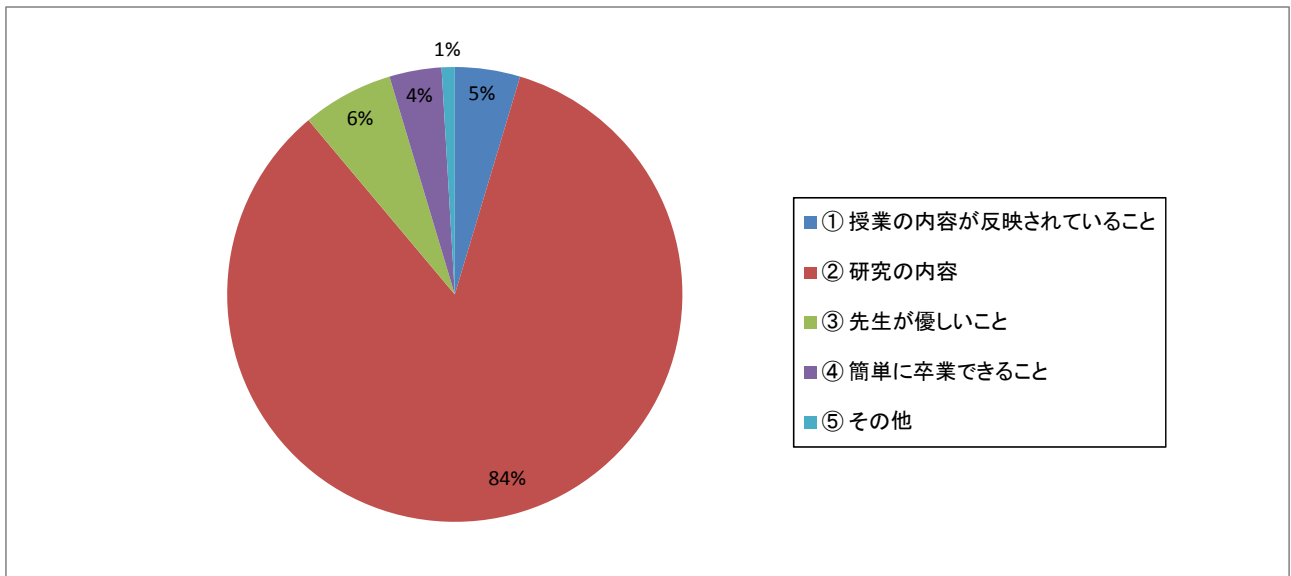


図7. 問7の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが卒業研究を行う研究室について何を重視して選ぶつもりかを調べるためのものです。ほとんどの方が“②研究室の研究内容”を選択しており、正しい意識を持っています。卒業研究は学部での学びの集大成として4年次に行うものです。また、卒業研究内容によって就職先が制限されることはありませんので、少しでも興味あるテーマで行うことが望ましいです。

8. 本学には大学院があり、修士課程や博士課程を修了することで修士や博士の学位を取ることができます。その事を知っていましたか？

図 8 に問 8 の回答分布を示します。

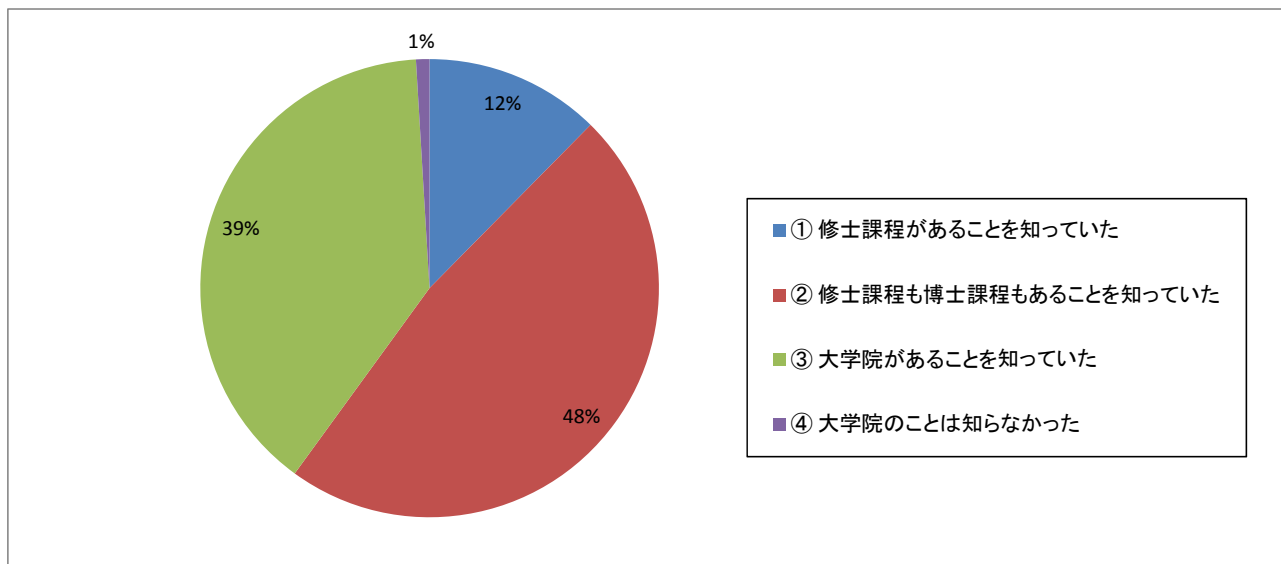


図 8. 問 8 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学院の存在をどの程度知っているか、また進学についての意識を調べるためのものです。ほとんどの方が大学院の存在を知っており、また、修士課程と博士課程の両方についても 48%の方が知っていました。大学院ではより高度な研究を行ったり、より高度な知識を学んでいます。大学院への進学率は年々増加傾向にあります。まだ先のことですが、進学も選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

9. あなたは大学卒業後の進路について、現在どのように考えていますか？ 一つだけ選択してください。

図9に問9の回答分布を示します。

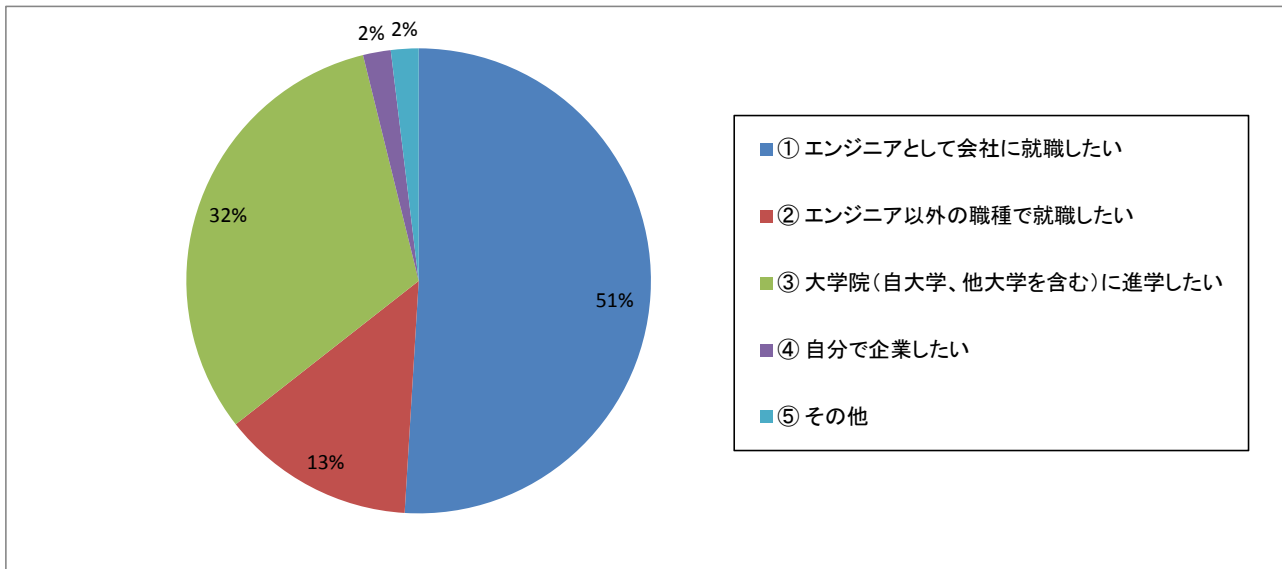


図9. 問9の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが大学卒業後の進路についての意識を調べるためのものです。51%の方が“①エンジニアとして会社に就職したい”を選択しています。①と“②エンジニア以外の職種で就職したい”を含めると64%の方が就職希望となっています。また、“大学院(自大学、他大学を含む)に進学したい”が32%と、昨年度と比べて4%高くなっていました。就職でも進学でも、みなさんの希望が叶うように、今のうちからしっかり学んでいきましょう。

10. あなたが職業を決める上で、最も重要であると考えているものは何ですか？ 一つだけ選択してください。

図 10 に問 10 の回答分布を示します。

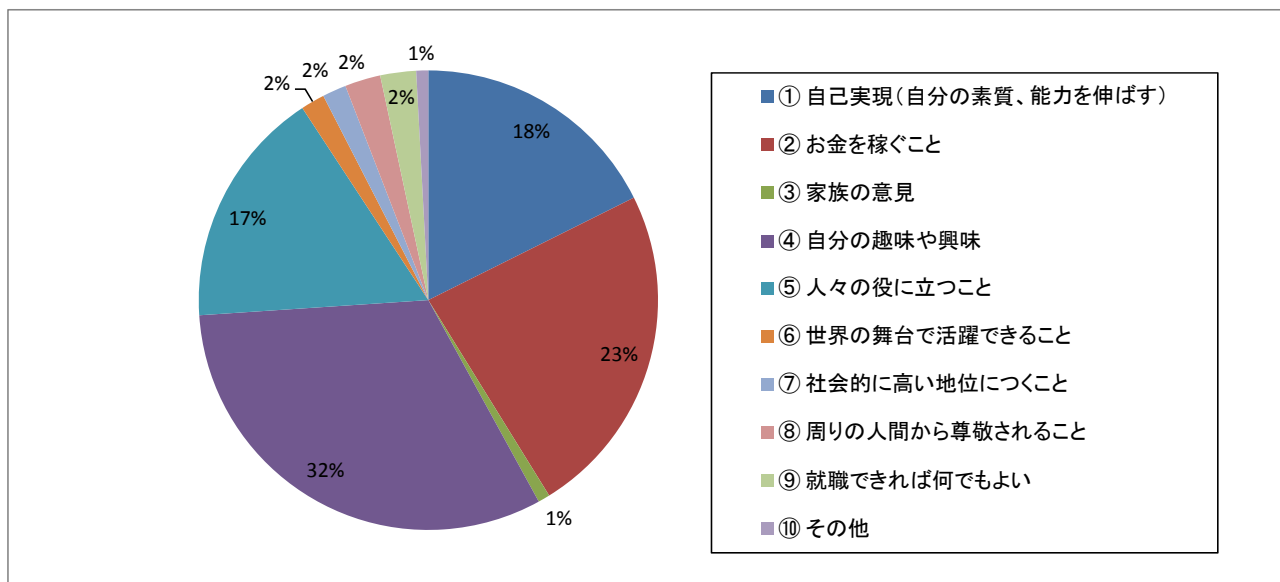


図 10. 問 10 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが職業を選ぶ際に何を重視するのかを調べるためのものです。回答の 50%が“①自己実現”“④自分の趣味や興味”でした。自分が生かせる分野や自分の興味ある分野で生きていきたいという傾向に大きな変化はなく、本学の学生として立派な資質を持っていると思います。これからの大学生活を通じて、日々の学びと共に自分の生かせる分野や興味ある分野を広げて行って下さい。

“②お金を稼ぐこと”は 23%あり、仕事の対価を意識するのは自然なことです。その一方、“⑤人々の役に立つこと”は 17%と、①自己実現に次いで多くの回答がありました。「生き甲斐」や「やり甲斐」を感じたいということは、技術者・研究者の卵として立派な素質があります。その思いを失うことなく、将来の夢に向かって欲しいと思います。

11. 就職時に必要なもの、または大事なものは何であると思いますか？ 一つだけ選択して下さい。

図 11 に問 11 の回答分布を示します。

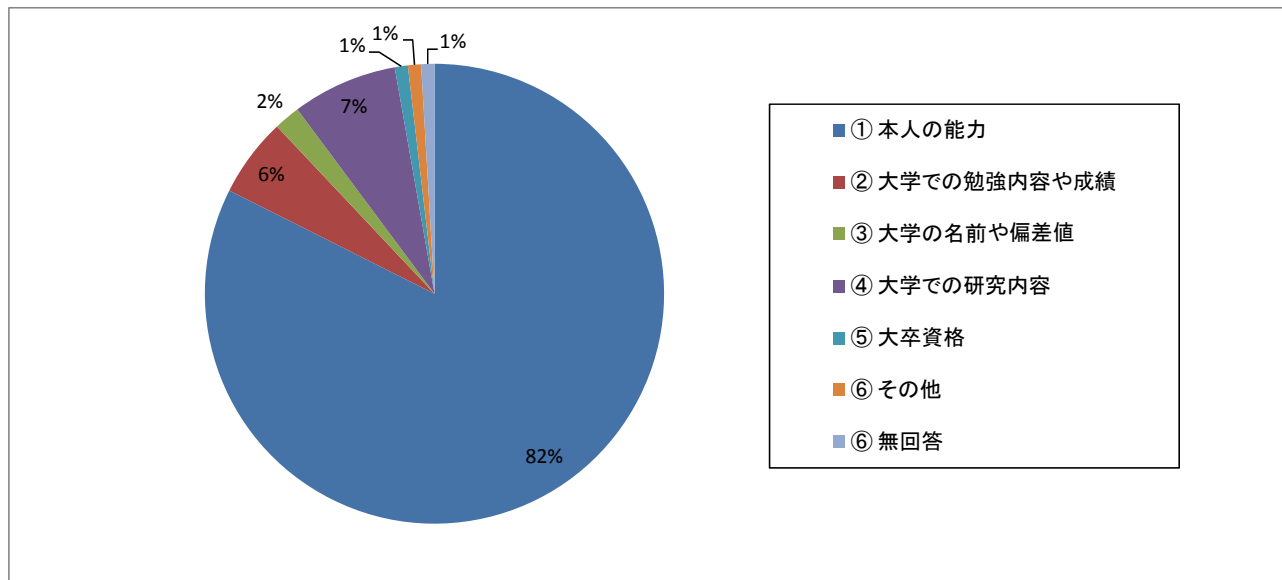


図 11. 問 11 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが就職に何が必要とされていると考えているのかを調べるためのものです。回答の 82%が“①本人の能力”でした。社会で必要とされるのは、大学の名前・偏差値よりも、本人の能力です。ほとんどの方が正しく把握されています。よく理解しないまま試験に臨んでも実力に結びつきません。なぜそうなるのか原理や背景まで考えを巡らすことが本当の理解へ、そしてその考える過程があなたの実力へ結びつきます。

12. 就職状況についてお尋ねします。各企業の新卒採用は「量から質へ」と大きく転換し、厳選採用する傾向にある事を知っていますか？

図 12 に問 12 の回答分布を示します。

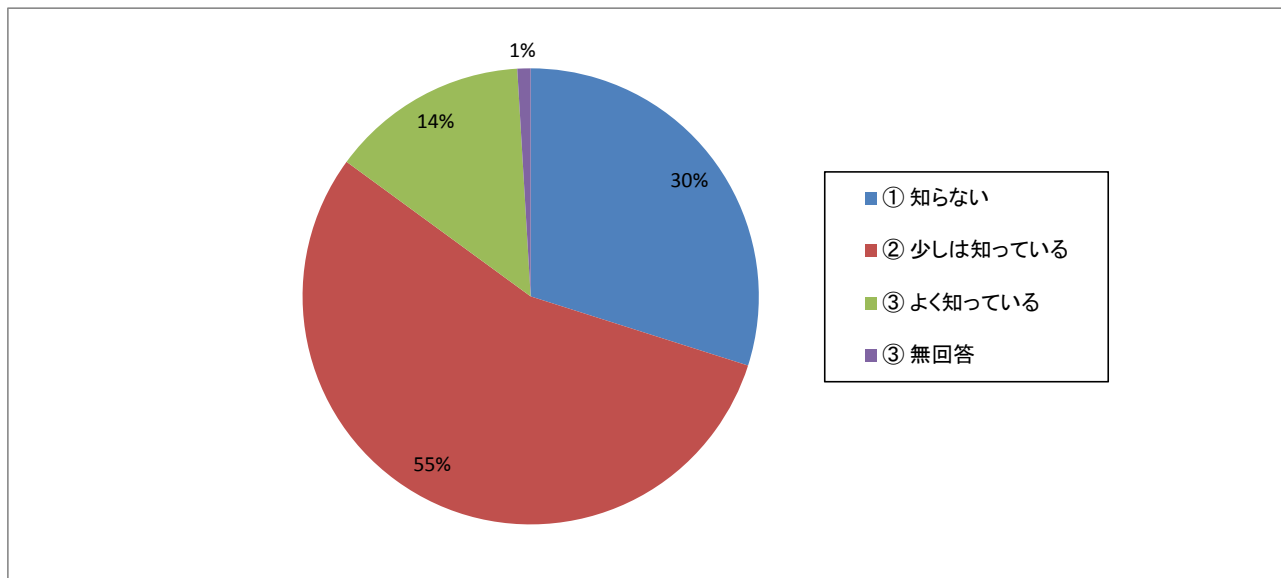


図 12. 問 12 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが就職状況についてどの程度知っているかを調べるためのものです。69%の方が新卒採用の変化を知っていると回答しております。採用枠があっても、企業側の目に適わなければ内定は出ません。「とりあえず大学を卒業すれば就職できる」状況ではないことを知っておいてください。しかし、実力があれば、企業側が貴方を必要とします。本学科では、皆さんのやる気に応える教育設備や支援体制を整えています。存分に活用して、実力を養いましょう。

13. 本年度の就職状況について、どの程度意識していますか？

図 13 に問 13 の回答分布を示します。

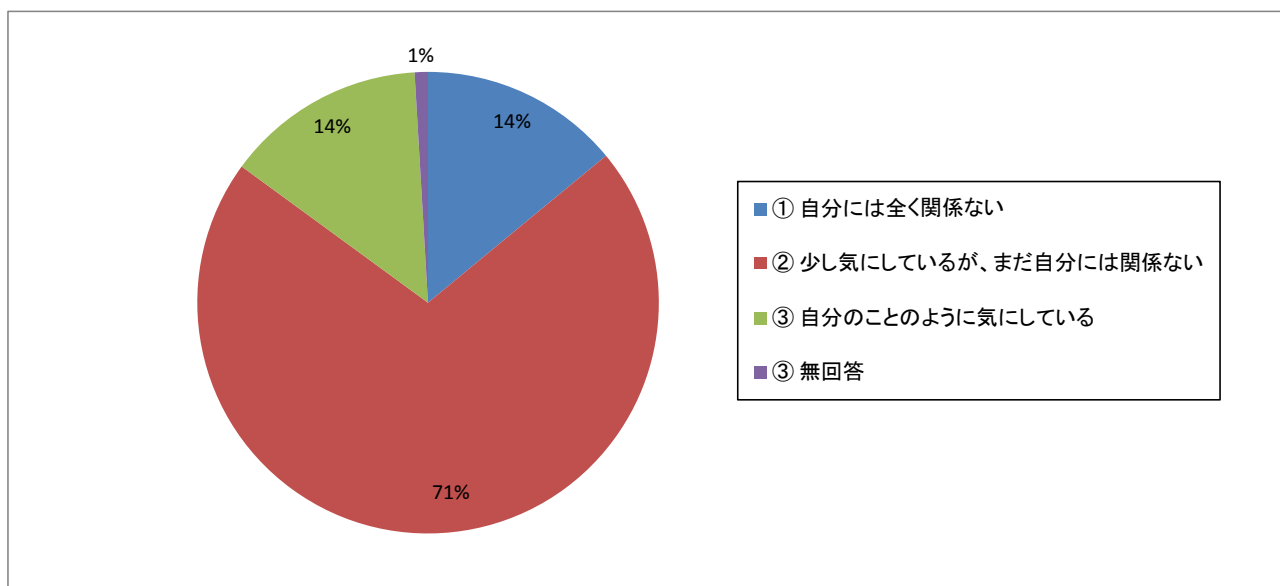


図 13. 問 13 の回答分布の円グラフ

この質問は学生の皆さんが就職状況の厳しさについての意識の程度を調べるためのものです。“①自分には全く関係ない”“②少し気にしているが、まだ自分には関係ない”が 85%あり、ほとんどの方が「就職はまだ先のこと」という認識です。しかしながら、大学生活は長いようで短く、あっという間に就職活動の時期が訪れます。今から意識しておきましょう。

本学には就職活動を応援してくれるキャリアサポートセンターがあります。また、インターンシップなど企業と直接触れ合うことができる機会もあります。是非活用して下さい。

14. アルバイトをしていますか？ している場合は週何日、1日あたりの平均時間を記入して下さい。

図 14(a)にアルバイトの有無の回答分布、図 14(b)にアルバイト日数/週別で集計したアルバイト時間を示します。

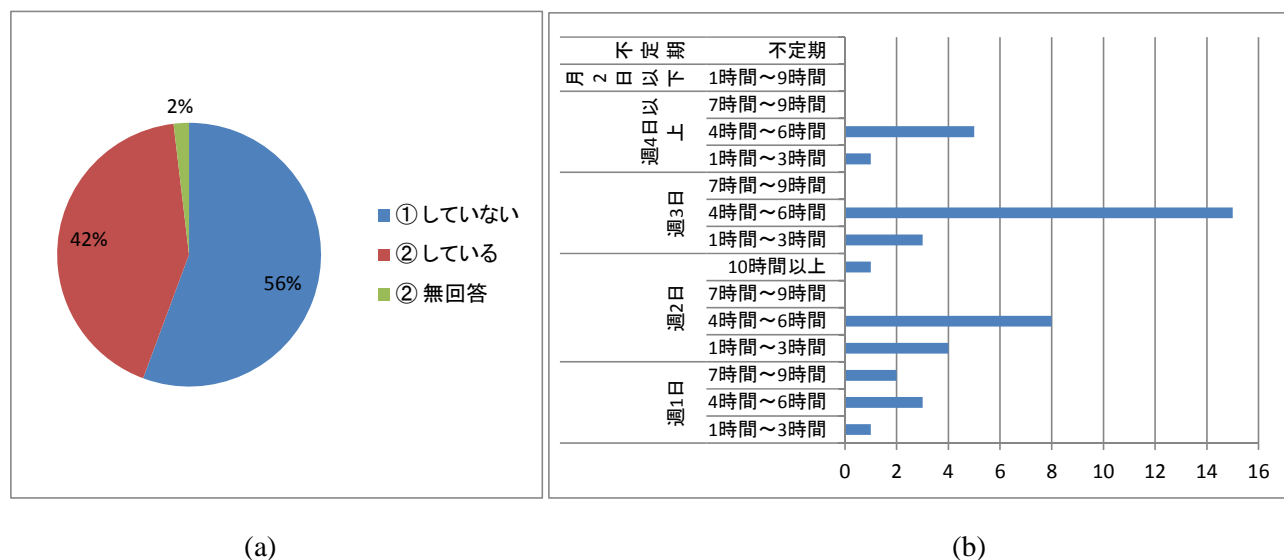


図 14. (a)アルバイトの有無に対する回答分布 および
(b) 週あたりのアルバイト日数別で集計したアルバイト時間分布

この質問は学生の皆さんのアルバイト状況を調べるためのものです。42%の方がアルバイトをしていると回答しており、昨年度より4%多くなっています。回数と時間について、週3日で1日あたり4～6時間が最も頻度が多いとなっています。この頻度と時間数から考えると、勉強する時間を圧迫しているように見受けられますが、いかがでしょうか？ アルバイトについて様々な事情があると思いますが、今は「学ぶ」ことが一番大切な時期です。せっかくの学びの機会を無駄にしないよう、そして実力をつけることを忘れないでください。

15. 大学に入学して約4カ月経過しましたが、入学前にあなたが大学に対して持っていたイメージと異なることはありますか。もしあれば教えてください。

数が多いので、目立った意見とそれに対する教員側の回答を述べます。なお、皆さんの意見は類似意見をまとめるために多少文面が変わっています。

・勉強（学習内容）が難しい、思っていたより忙しい、遊べると聞いていたが遊べない、とても厳しい

[回答]

(1) 忙しい場合、時間の使い方を見直して下さい。サークルやクラブ、アルバイト、遊行などの時間が多くありませんか？ 今何が重要なのかよく考え、選択しましょう。

(2) 他大学と比べ、授業内容が難しすぎるということはありません。予習・復習時間が十分足りているか確認してください。一生懸命やっているのに行けない場合、授業を受けるための実力が不足している可能性があります。学習サポート室を訪れ相談してください。

(3) 授業がわかりにくい場合、授業だけで理解しようとしていないか勉強方法を見直してください。多くの科目の場合、予習・復習なしでは習得が困難です。

・意外に勉強についていける、もっと自由に授業を取れると思っていた、もっと専門的な事に触れたい、高校でやっている授業と大差ない、もっと突っ込んだ話を聴きたかった（16. から）

[回答]

入学者のバックグラウンドが多様化しており、難しいと感じる方がいる一方で、非常に簡単だと感じる方もいることは十分承知しています。バックグラウンドの多様化に対応するため、1年前期には高校の内容の延長線上にある科目が配置されています。簡単とか退屈だと感じる方はこれまで良く勉強されてきたものと思います。しかしながら、初めて触れる事柄が出てくると状況が一変します。今までの延長線上になく、初めて触れる事柄には戸惑うことが多く、何を指しているのか、またその背景まで考えを巡らせて指している事柄を理解することは容易ではありません。油断していると理解できないものがあつという間に増えていき、手が付けられなくなってしまいうでしょう。1年後期から、初めて触れる内容が増えてきます。決して脅すつもりはありませんが、ちょっとした躓きで授業について行けなくなることがあります。予習を怠らないようにし、分からない事があれば事前に時間を掛けて理解するようにしておきましょう。

それでも余裕があって満足できない場合、大学院レベルの参考書を使って自分で進めることができます。参考書については教員に尋ねてみて下さい。

・マナーが悪い、勉強している人が少ない、できる人とできない人が分かれている

[回答]

大学に限らず、人の集まるところは社会の縮図となります。マナーが良い人もいれば悪い人も存在し、一生懸命勉強している人もいればしない人も存在し、能力に満ちあふれた人もいればそうで

ない人も存在します。学科の中だけでなく、大学の中、そして世の中を見渡してください。何事でも、うまくやっている人もやっていない人も、一生懸命やっている人もやっていない人もいくらでもあります。

皆さんは大学を卒業後、多様な人達の社会で生きていくことになります。その一面を見て不満をこぼすだけでは建設的ではありませんし、何より寂しいものです。社会の中での自分の存在意義や価値を見出すことが「やり甲斐」や「生き甲斐」につながります。良い刺激を与えるような人達の活動を見つけて参考にしたり、一緒に活動したりしても良いでしょう。自分の存在意義や価値を高めて行って欲しいと思います。

16. 最後に、電子工学科に対する要望などがあったら記入ください。

個別の意見が多いため、目立った意見・気になった意見と、それに対する教員側の回答を述べます。なお、皆さんの意見は類似意見をまとめるために多少文面が変わっています。

- ・女子が少ない（15 からも）

[回答]

我々にとっても大きな問題です。電気電子系は女性が特に少ないことを承知しています。すぐに改善することは難しいですが、高校への出張授業だけでなくオープンキャンパスでの活動を活発にし、電気電子系の魅力と共に、女子学生やその保護者にアピールしていきます。

- ・実験を増やして欲しい、自分で何かを作りたい

[回答]

専門の実験科目が少ないことを承知しています。今後、増やして行く予定です。

- ・定期テストの返却と解説をちゃんとして欲しい

[回答]

テストの採点が授業期間後になってしまう場合や、返却したテストが予期せぬ使い方をされてしまう恐れがある場合は返却できませんが、解説と共に返却するよう努めます。試験終了から 1~2 ヶ月後になってしまいますが、ポータルサイト S gsot（ガソット）から定期試験答案と解答例を確認することができますので、利用ください。

- ・卒業単位を減らして欲しい

[回答]

文部科学省の定める「大学設置基準」に、大学の卒業所要単位は 124 単位以上と定められています。他大学と違いはありません。

- ・もっと詳しく、もっと説明を

[回答]

積極的な姿勢が大学では必要であり、大変良い姿勢だと思います。ですが、口を開けて餌を待っているよりも、自分から餌を探しに行く方が早く餌を探すことができます。自分で調べたり、教員に尋ねに行くことをお勧めします。

- ・企業との連携はあるのか？

[回答]

教員が個人的に関わり合いを持つことはありますが、特定の企業に優先的に就職できるということはありません。就業体験を希望するのであれば、インターンシップというものがあります。通常は 3 年の夏休みに開催されることが多いです。就職・キャリアサポート課に問い合わせてください。

最後に

これらの他、皆さんから多くの意見を頂きました。学科をより良くするために、参考にさせていただきます。アンケートにご協力いただいた学生の皆さんに感謝します。

(担当：石川博康 ishkwh@sic.shibaura-it.ac.jp)